

太秦・嵯峨野地域の遺跡 2

—古墳の時代 秦氏登場—

(財)京都市埋蔵文化財研究所 高 橋 潔

1 文献にみる秦氏の登場

『日本書紀』（養老四〔720〕年成立）

応神十四	(283) 年	弓月君百濟より来歸り
雄略十五	(471) 年	秦造酒がウズマサの姓を賜う
欽明即位	(539) 前紀	欽明天皇が秦大津父を大藏省として重用する理由
推古十一	(603) 年	聖徳太子より仏像を受けて秦河勝が蜂岡寺を建立
推古三十一	(623) 年	新羅の使者が上貢した仏像を葛野秦寺に置いた
皇極三	(644) 年	秦河勝が大生部多を懲らしめた

『新撰姓氏録』（弘仁六〔815〕年編纂）

左京諸蕃上	太秦公宿禰
山城国諸蕃	秦忌寸

『朝野群載』巻二（承和五〔838〕年）

広隆寺縁起

2 古墳時代の太秦・嵯峨野

古墳時代前期（4 世紀、1700 年前） 古墳時代前期といえば、各地に地域の首長の墓として大型の前方後円墳が築かれますが、この嵯峨野周辺には前期の古墳は全く知られていません。集落としては弥生時代中期から続く村ノ内町・西ノ京・和泉式部町・松室などの遺跡がありますが、古墳は造られなかったようです。

古墳時代中期（5 世紀、1600 年前） 中期も前期と同じ集落遺跡での活動が見られます。なかでも、和泉式部町遺跡では L 字形に曲がるカマドの煙道をもつ竪穴住居や韓式系土器や初期須恵器といわれる土器が出土しています。朝鮮半島との強い繋がりを示しめすことで注目されます。中期の終わりごろには、ようやく古墳の築造が開始されます。全長 60～70m の前方後円墳（仲野親王陵、清水山古墳）で、地域の首長に相応しいものです。

古墳時代後期（6～7 世紀、1500～1400 年前） 後期になると前期から継続する 4 遺跡に加えて、新たに常盤仲之町・上ノ段町・多藪町・嵯峨野高田町・花園・嵯峨遺跡など 6 遺跡が加わり、人口が急増したと考えられます。古墳も少なくとも 2 つの首長墓系譜が見られ、墳形は前方後円墳から大型の円墳へと変化します。この一方で、平野部に築かれた首長墓古墳とは別に、後期の後半には小型墳が数多く群をなす群集墳が北嵯峨丘陵の南斜面にいくつも築かれるようになります。

3 まとめ

この後、飛鳥時代には太秦の地に、寺院が建立されます。京都でも最も古い寺院の一つである広隆寺の前身で、秦河勝によって建立されたとされる蜂岡寺（広隆寺旧境内遺跡）です。広隆寺旧境内遺跡と重複する常盤仲之町遺跡では、寺院建立に関わったと思われる竪穴住居が多く見つ

かっています。

嵯峨野における古墳の築造は古墳時代中期の終わり頃に始められ、続く古墳時代後期には京都盆地北部でも屈指の古墳密集地となるほど多くの古墳が造られるようになります。なかなか、考古学・発掘調査の側面から秦氏と直接結び付けることは難しいのですが、前期から中期中ごろまで全く造られなかった古墳が突如出現し、集落遺跡も増加し始める中期の終わり頃に、太秦・嵯峨野地域に大きな変化があったことは事実です。

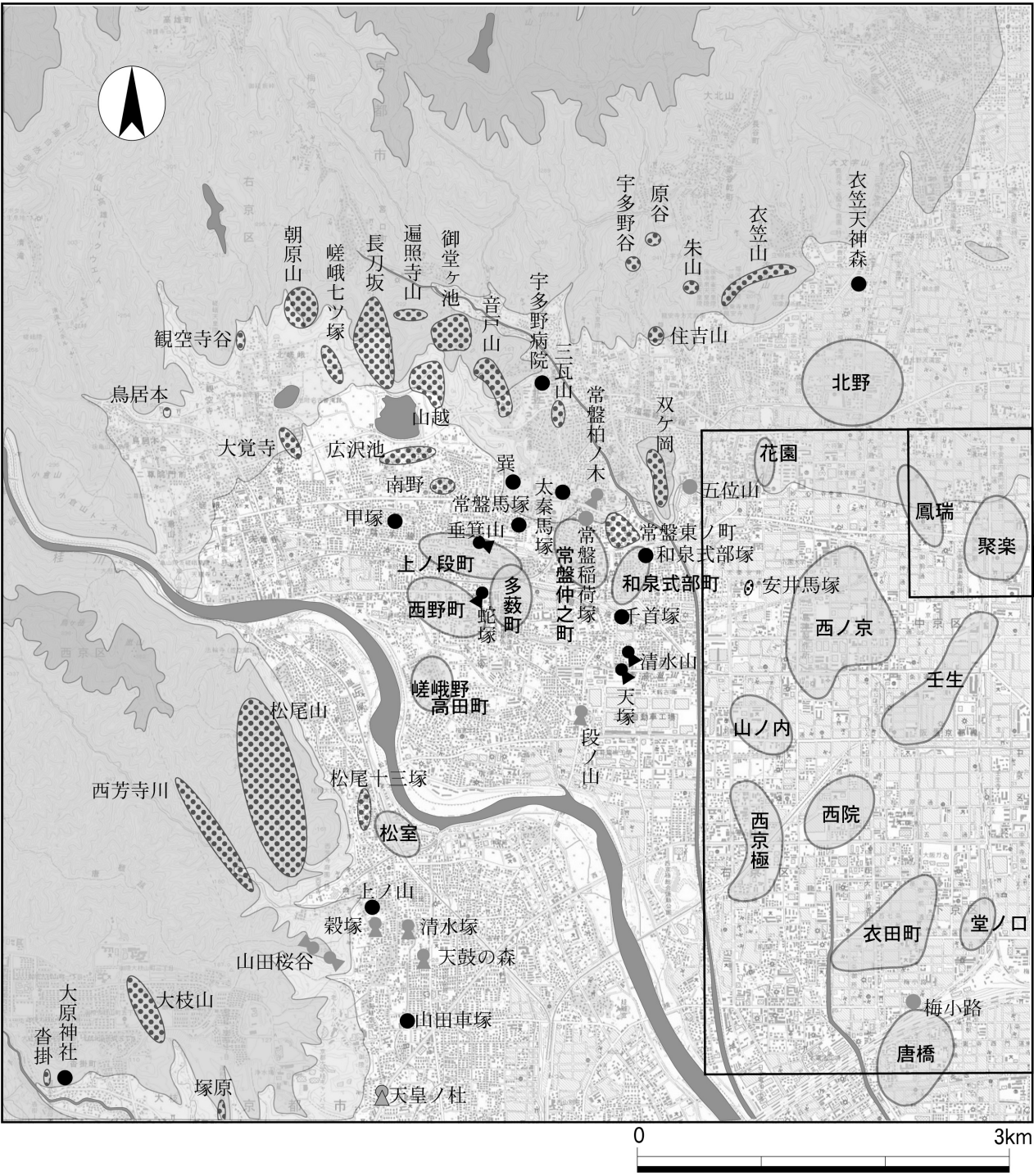


図 1 嵯峨野地域の遺跡分布図

表 1 主な集落遺跡

遺跡名	所在地	遺跡の種類	時代
村ノ内町遺跡	右京区常盤	集落跡	弥生時代中期から 飛鳥時代
西ノ京遺跡	中京区西ノ京	散布地	弥生時代中期から 古墳時代後期
和泉式部町遺跡	右京区太秦	集落跡	弥生時代中期から 古墳時代後期
松室遺跡	西京区松室	集落跡	弥生時代中期から 飛鳥時代
常盤仲之町遺跡	右京区常盤	集落跡	古墳時代後期
上ノ段町遺跡	右京区太秦	集落跡	古墳時代後期
多藪町遺跡	右京区太秦	集落跡	古墳時代後期
嵯峨野高田町遺跡	右京区嵯峨野	集落跡？	古墳時代後期
花園遺跡	右京区花園	集落跡	古墳時代後期
嵯峨遺跡	右京区嵯峨	集落跡？	古墳時代後期

表 2 主な古墳・古墳群

古墳名	所在地	墳形	規模・現状	時期
段ノ山古墳	右京区梅津	前方後円墳	全長 75m 以上・ 全壊	古墳時代後期
清水山古墳	右京区太秦	前方後円墳	全長 60m・ 全壊	古墳時代中期
天塚古墳	右京区太秦	前方後円墳	全長 71m・ 史跡	古墳時代後期
蛇塚古墳	右京区太秦	前方後円墳	全長 75m・ 史跡・ 石室残存	古墳時代後期
仲野親王陵古墳	右京区太秦	前方後円墳	全長 75m・ 陵墓・ 宮内庁管理	古墳時代中期
太秦馬塚古墳	右京区太秦	前方後円墳	全長不明・ 全壊	古墳時代後期
常盤馬塚古墳	右京区常盤	墳形不明	全壊	古墳時代後期
双ヶ岡ーノ丘古墳	右京区御室	円墳	径 44m、1980 年調査	古墳時代後期
常盤御池古墳	右京区常盤	円墳	径 20m 以上	古墳時代後期
巽古墳	右京区山越	円墳	全壊	古墳時代後期
甲塚古墳	右京区嵯峨	円墳	径 38m	古墳時代後期
印空寺古墳	右京区山越	円墳	径 20m	古墳時代後期
遍照寺古墳	右京区嵯峨	円墳	径 30m・ 半壊	古墳時代後期
稻荷古墳	右京区嵯峨	円墳	径 20m	古墳時代後期
広沢古墳群	右京区嵯峨	円墳	3 基	古墳時代後期
一本木古墳	右京区嵯峨	円墳	径 25m・ 全壊	古墳時代後期
南野古墳群	右京区嵯峨	円墳	4 基	古墳時代後期
大覚寺古墳群	右京区嵯峨	円山・ 入道塚・ 南天塚・ 狐塚の4 基		古墳時代後期
嵯峨七ツ塚	右京区北嵯峨	円墳	7 基	古墳時代後期
鳥居本古墳群	右京区嵯峨	円墳	2 基	古墳時代後期
観空寺谷古墳群	右京区北嵯峨	円墳	3 基	古墳時代後期
朝原山古墳群	右京区北嵯峨	円墳	11 基	古墳時代後期
長刀坂古墳群	右京区北嵯峨	円墳	31 基	古墳時代後期
遍照寺山古墳群	右京区北嵯峨	円墳	2 基	古墳時代後期
山越古墳群	右京区鳴滝・ 山越	円墳	17 基	古墳時代後期
御堂ヶ池古墳群	右京区梅ヶ畑	円墳	26 基	古墳時代後期
音戸山古墳群	右京区鳴滝	円墳・ 方墳	円 14 基・ 方3 基	古墳時代後期
朱山古墳群	右京区竜安寺	円墳	2 基	古墳時代後期
住吉山古墳群	右京区御室	円墳	4 基以上	古墳時代後期
三瓦山古墳群	右京区鳴滝	円墳	4 基	古墳時代後期
双ヶ岡古墳群	右京区御室	円墳	19 基	古墳時代後期

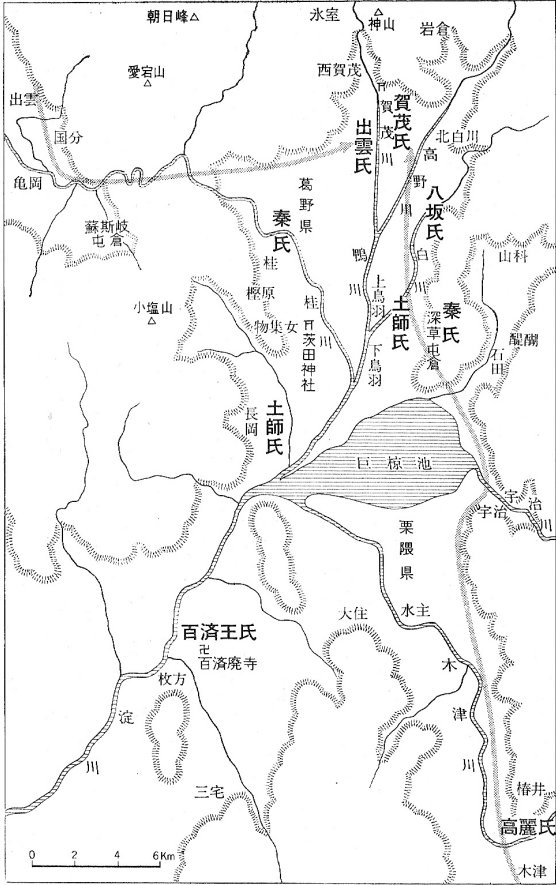


図 2 山城の古代氏族の分布

(『京都の歴史』第一巻 平安の新京 京都市史編さん所 1975 年)

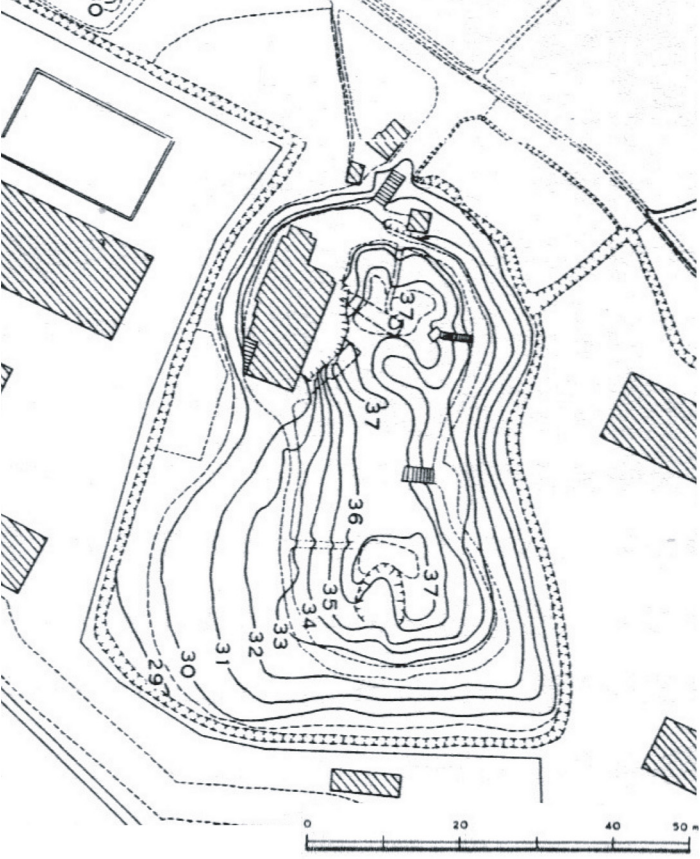
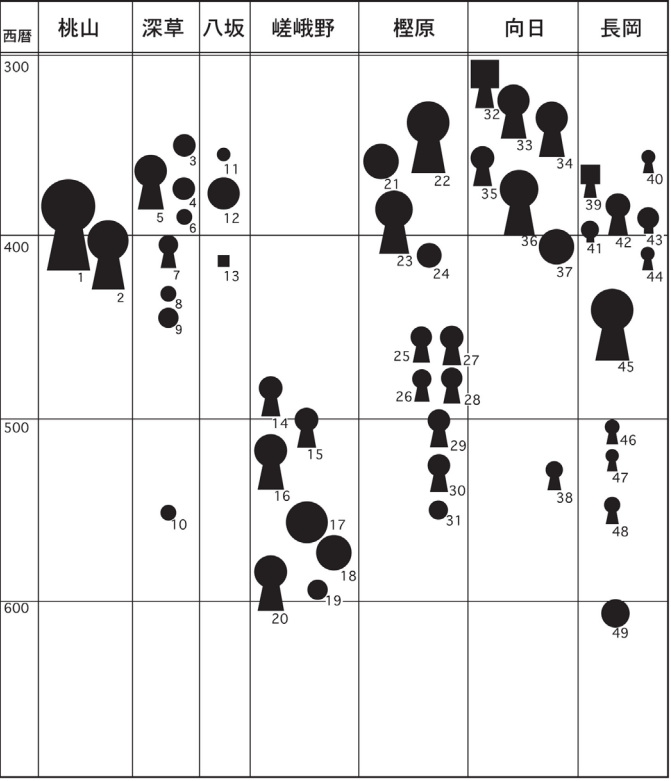


図 4 天塚古墳墳丘測量図 (1/1000)



1：黄金塚 1 号墳、2：黄金塚 2 号墳、3：稻荷山一ノ峰古墳、4：稻荷山三ノ峰古墳、5：稻荷山ニノ峰古墳、6：稻荷山荒神峰古墳、7：香神山古墳、8：仁明陵北古墳、9：谷口古墳、10：塚本古墳、11：荷塚 1 号墳、12：荷塚 3 号墳、13：八坂方墳、14：仲野親王陵（蘇我山古墳）、15：清水山古墳、16：天塚古墳、17：大覚寺 1 号墳、18：双ヶ岡 1 号墳、19：甲塚古墳、20：蛇塚古墳、21：百々池古墳、22：一本松塚古墳、23：天皇の杜古墳、24：塚ノ本古墳、25：巡礼塚古墳、26：穀塚古墳、27：山田板谷 2 号墳、28：山田板谷 1 号墳、29：清水塚古墳、30：天鼓ノ森古墳、31：山田塚古墳、32：元稲荷古墳、33：五塚原古墳、34：寺戸大塚古墳、35：北山古墳、36：妙見山古墳、37 佐高島陵古墳、38：物集女車塚古墳、39：長法寺南原古墳、40：境野 1 号墳、41：カラネガ岳 2 号墳、42：今里車塚古墳、43：鳥居前古墳、44：庄ノ淵古墳、45：恵解山古墳、46：舞塚古墳、47：塚本古墳、48：細塚古墳、49：今里大塚古墳

図 3 山城北部の首長墓の系譜

(『恒久の都 平安京』吉川弘文館 2010 年)

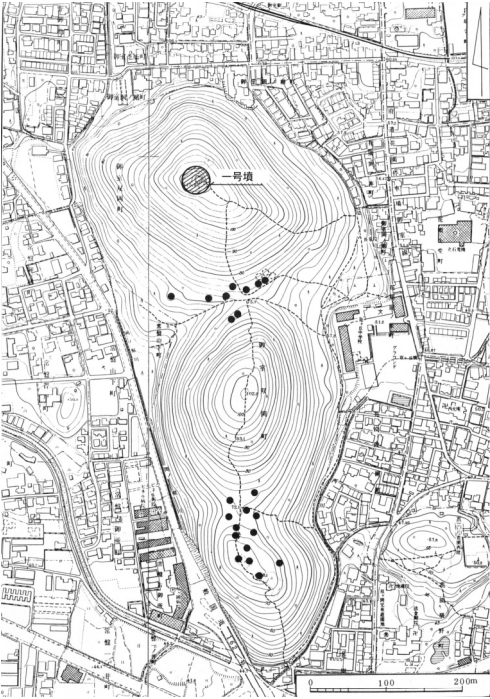


図 5 双ヶ岡古墳群分布図 (1/10000)

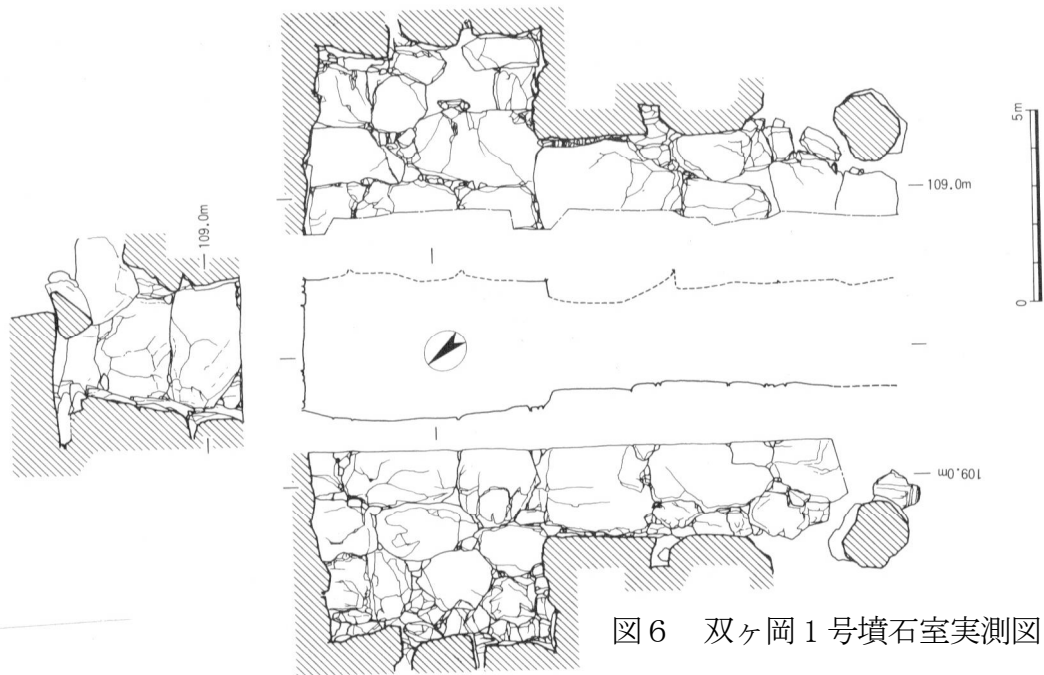


図6 双ヶ岡1号墳石室実測図 (1/200)

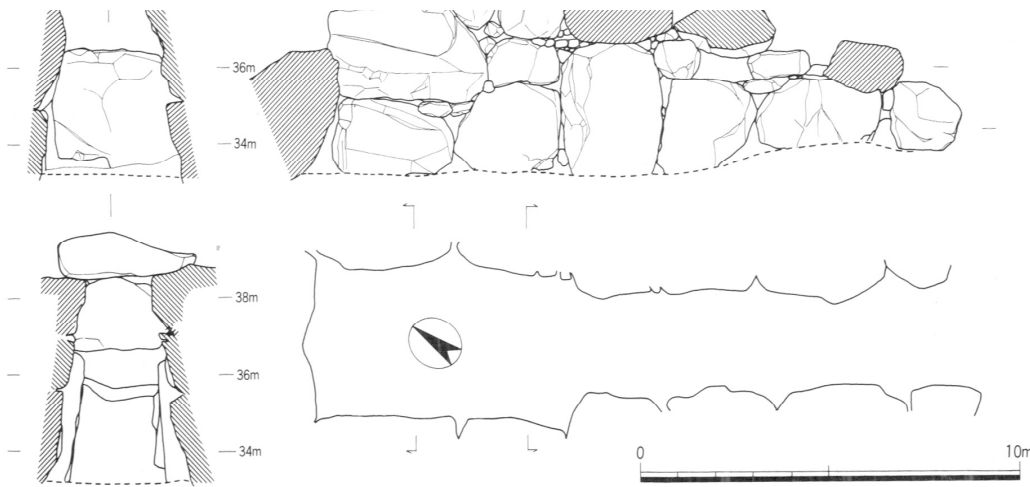


図7 蛇塚古墳石室実測図 (1/200)

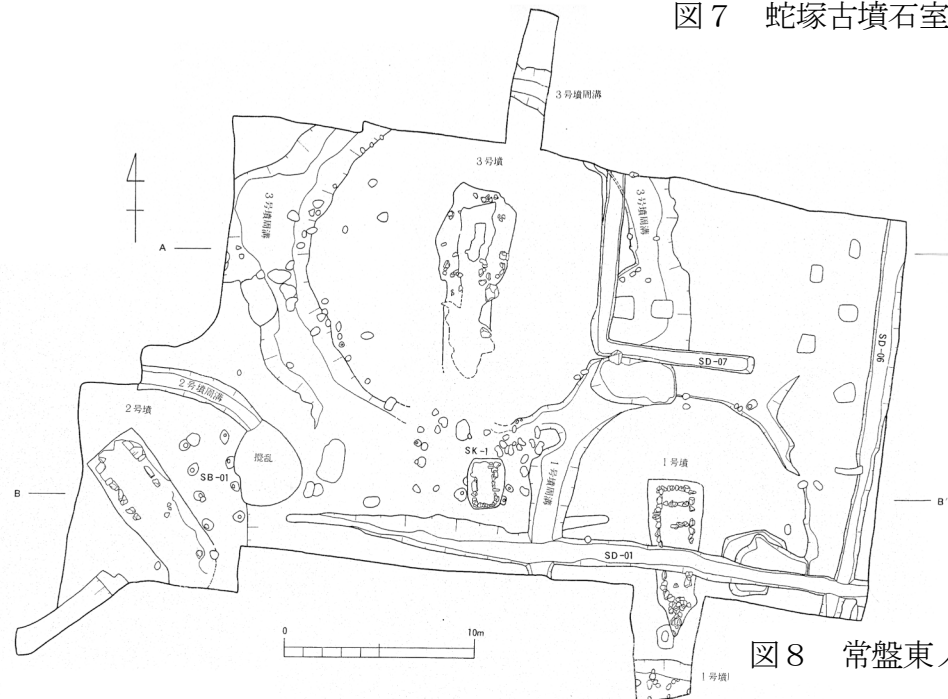


図8 常盤東ノ町古墳群 (1/400)

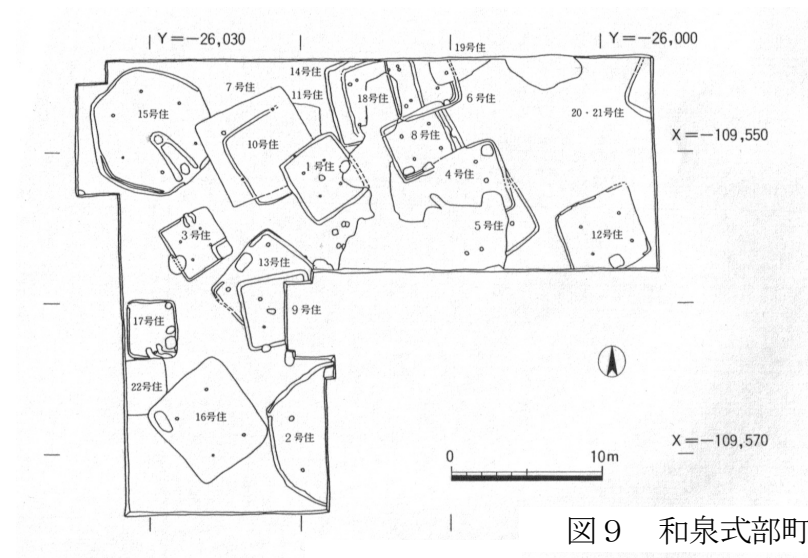


図9 和泉式部町遺跡 (1/500)



図10 常盤仲之町遺跡 (1/500)

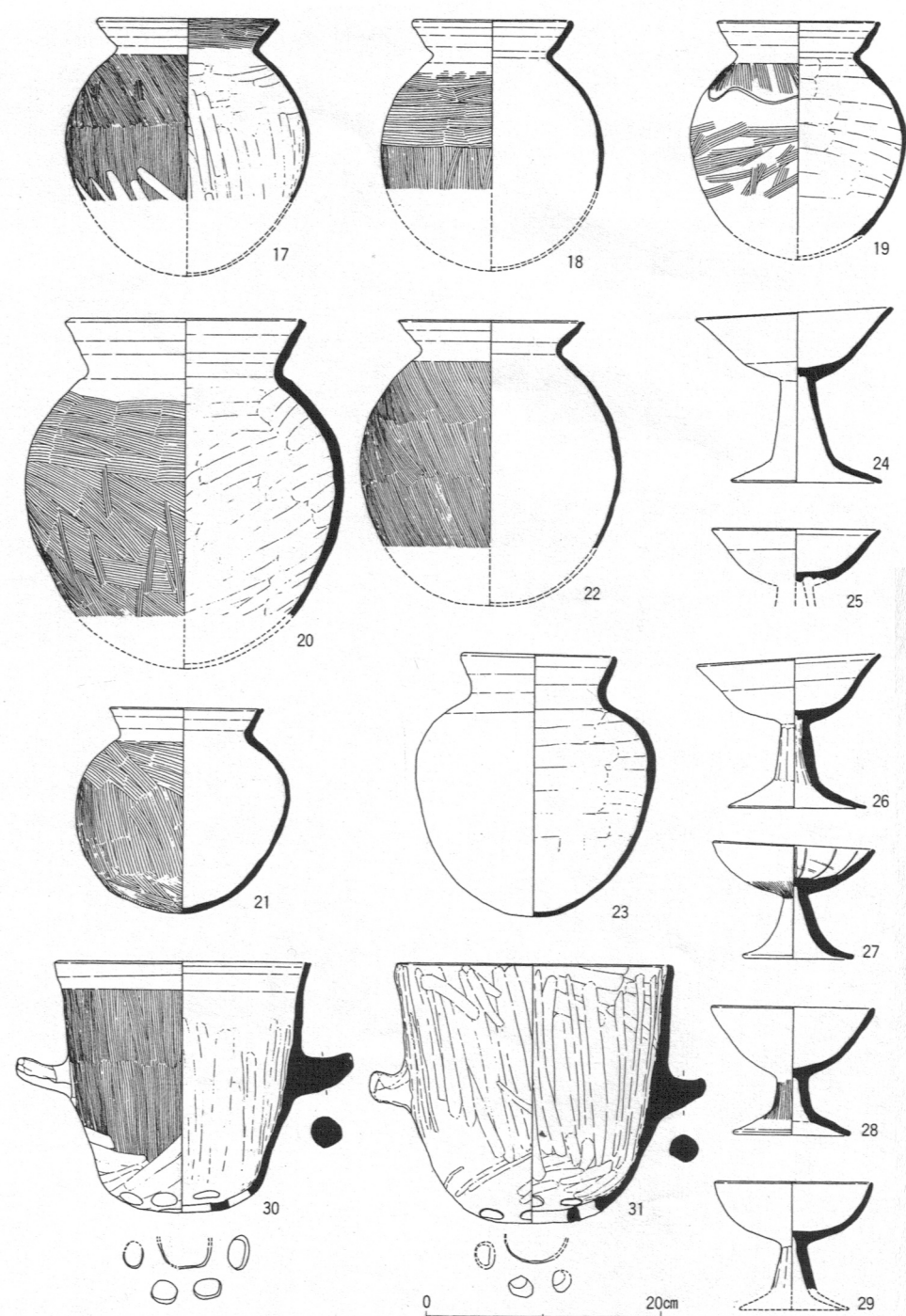
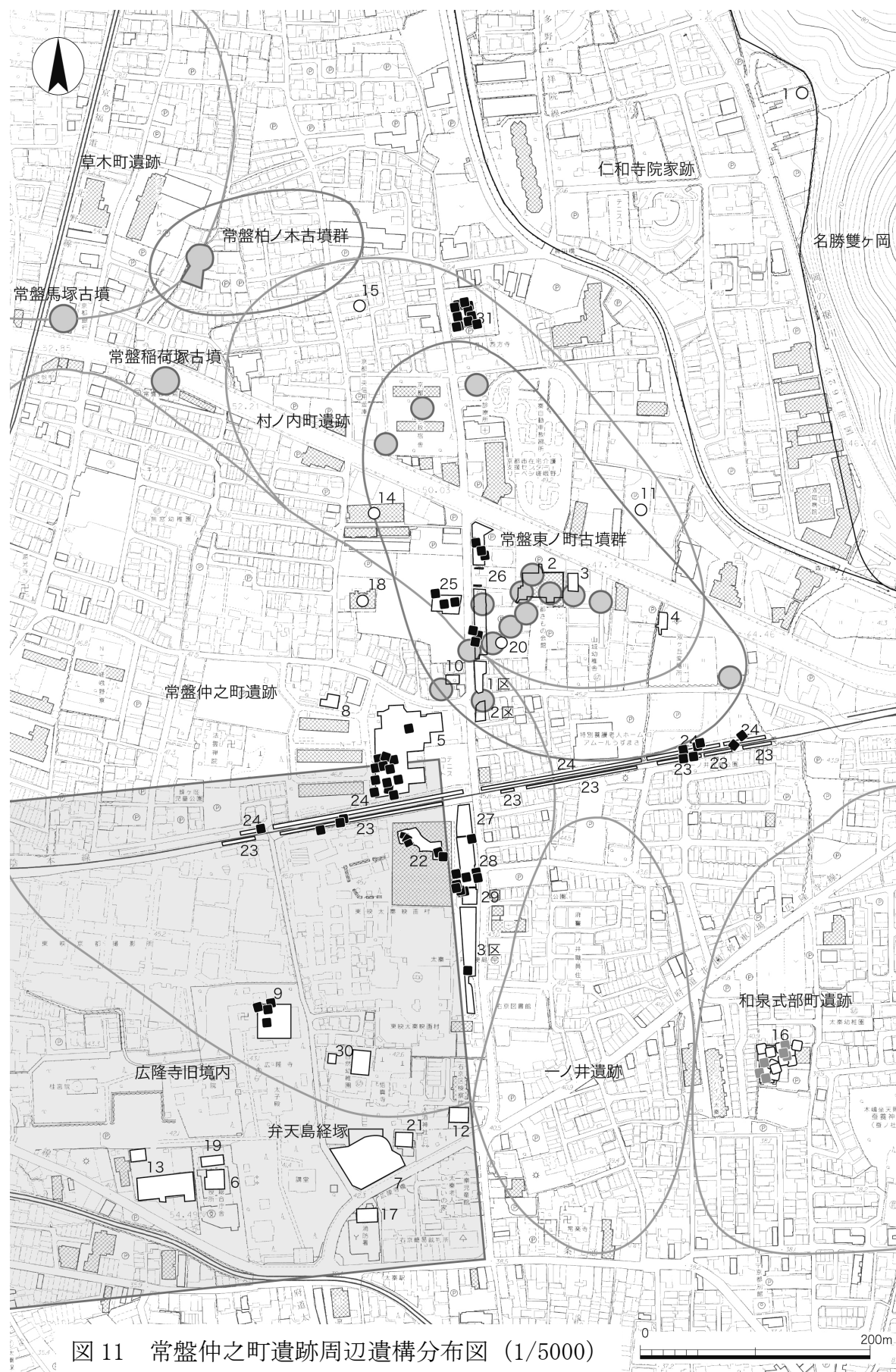


図 12 和泉式部町遺跡出土遺物 1 (1/6)

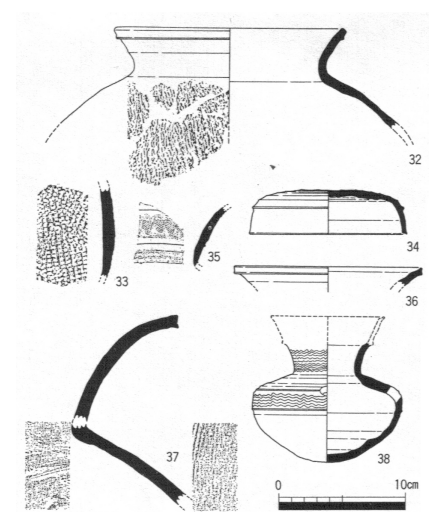


図 13 和泉式部町遺跡出土遺物 2 (1/6)

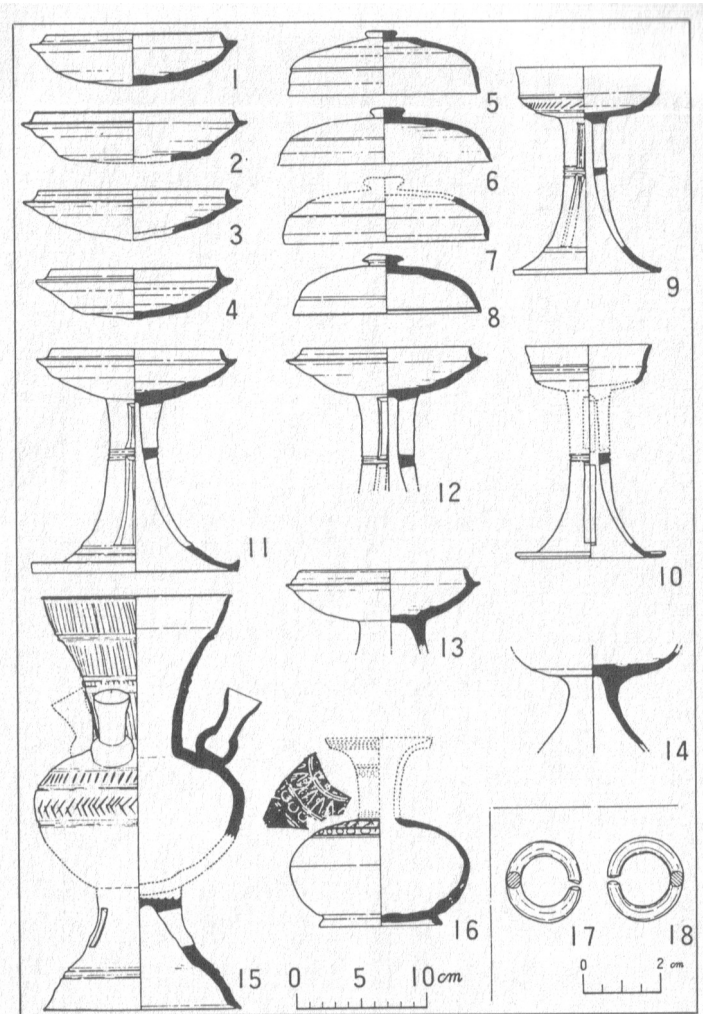


図 14 南天塚古墳出土遺物 (1/6)